

「大学病院の奈落」

伝えたかったことその後のこと

2018/11/05

日本医学ジャーナリスト協会 シンポジウム

高梨ゆき子

自己紹介

高梨ゆき子(たかなし・ゆきこ)

読売新聞記者 1992年入社

山形支局などを経て

社会部で文科省、会計検査院を担当

調査報道班、厚労省担当キャップを経て

医療部に移り、がん、難病、臓器移植のほか

群大病院事件をはじめ医療事故報道も手がける

医療部次長としてデスクも務めている

★最初の報道

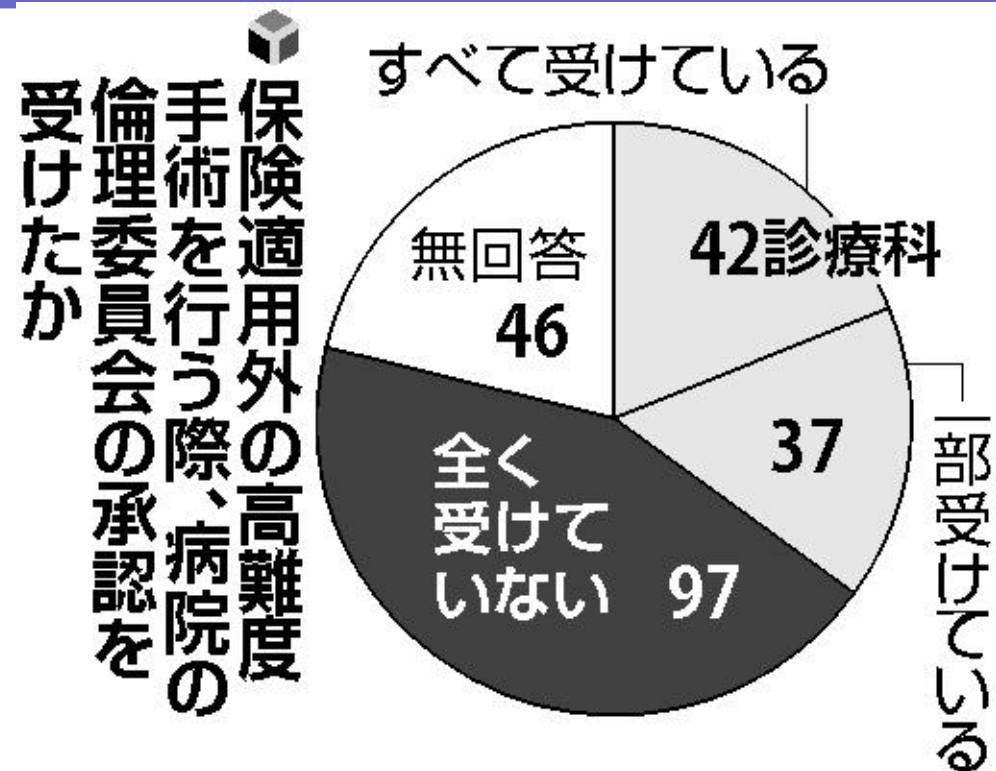
同じ医師が執刀した
腹腔鏡を使う肝切除
手術を受けた8人が、
術後短期間で死亡

(読売新聞朝刊1面)

高難度の肝切除
同
矢部力執刀

田島謙一郎(国立がん研究センターがん対策研究部長)
○パネル4
歳になるために
同・秋下雅弘
授、大西秀
センター精神
論者)
【応募】25
子メールで、ニ
電話番号、希
のある方は併
東京都中央区
6F、医療
務局(03・
午前10時〜午
847・77
60006@entry.
月25日必着。

他の病院でも



日本肝胆膵外科学会アンケート

55%が倫理審査を全く受けていない

情報共有の問題点

誤解

低侵襲
体の負担が少ない

医師の説明



普通の手術より簡単
リスクが低い

遺族の認識



情報不足が不信に

手術自体は
うまくいきました



どうしてこんなに
容体が悪い
のですか？



何か
おかしい

情報が不十分 → 疑念

現代医療と患者安全

「かつての医療は、頂をあとぎながら山道を登っていくようなものだった。高度に進歩した現代の医療は登り詰めて稜線を行くのに似ている。山道なら転んでも取り返しがつくが、稜線から転げ落ちれば最悪の結果につながる。医師はそれを十分に認識し、患者と認識を共有して、困難を一緒に乗り越える時代になった」

多田羅浩三・大阪大学名誉教授

（千葉県がんセンターの第三者調査委員会会長）

「大学病院の奈落」p.246

患者参加の医療

Y! <https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180607-00010001-yomidr-sctch> 検索...

群大手術死、25歳で逝っ... x

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

群大手術死、25歳で逝った妹へ…遺族会代表が実名公表、患者参加型の医療への誓い

6/7(木) 15:01配信

yomiDr.
ヨミドクター

群馬大学病院で2014年に発覚した手術死の続発。不十分な体制で無理な手術が繰り返された問題を教訓に病院改革を進める群馬大学病院は、患者と医療者が協力して医療の安全などに取り組む「患者参加型推進委員会」を新たに設け、遺族会代表の2人を委員に迎える。18年6月22日に初会合が開かれる予定だ。それを前に、これまで匿名で活動していた代表の一人、妹を亡くした小野里和孝さん（38）が読売新聞のインタビューに応じ、初めて実名を明かして、今後の抱負や妹・美早さん（当時25歳）への思いを語った。



生き残った僕が、家族の思いを…

——今回、実名を公表することにしたのは、どのようなお考えからですか。

ATOK 変

岩手医大バワ... 群大手術死、2...

17:32

対立から対話へ



木村豊さん(遺族会代表)

病院職員に思いを語る

2018/06/22@群大医学部



群大病院の挑戦

2019年1月～

- ・入院患者の電子カルテ自由閲覧システム
患者と医療者の情報共有強化が目的
＝国立大学病院で初

※おそらく全ての病院のなかでも
ほとんど例のない取り組み

重大な事故が、日本の医療を変える！

ご冥福をお祈りします・・・

